第３次恵那市地域計画

令和８年度（2026）～ 令和２７年度（2045）

令和８年４月

恵　那　市

目次

第１章 はじめに

1.計画の概念

（１）計画の趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（２）計画の構成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

（３）計画策定の取り組み・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

第２章 各地域の計画

（１）大井地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 2

（２）長島地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

（３）東野地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9

（４）三郷地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12

（５）武並地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 15

（６）笠置地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 18

（７）中野方地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 19

（８）飯地地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

（９）岩村地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 29

（10）山岡地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 35

（11）明智地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 39

（12）串原地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 44

（13）上矢作地域自治区・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 48

はじめに

1. 計画の概念

（1）計画の趣旨

○「地域計画」は、自分たちが住んでいる地域が、子どもから大人まで世代を超えた交流を生み出し、人が繋がることでいきいきとしたより住みやすい魅力のある地域にすることを目的に今後の地域ビジョンを掲げ、地域課題を解決するためや地域の活性化に向けた計画です。

- 「地域計画」とは、身近な地域に目を向け、共通する地域ニーズ、課題を掴み、地域の強みを生かして目指すべき地域の将来像を示す計画です。
- 計画の策定に当たっては、小学生を含めた地域住民へのアンケートなど各地域がそれぞれの方法で地域の担い手となる方からの意見聴取や計画づくりに参加していただくなど多様な意見を聞く機会を設けました。

（2）計画策定の取り組み

○地域の課題解決に向けて、重点を絞り、地域に特化した特色ある計画を次のように策定しました。

① 現状の検証

地域の課題、ニーズ等をアンケートや聞き取り調査等で的確に把握する。

② 地域の将来像(ｷｬｯﾁﾌﾚｰｽﾞ)の設定

自分たちが住んでいる地域の目指すべき将来像(地域の強みを伸ばす姿)を描く。

③ 目標の明確化

現状を分析し、計画の柱(基本目標)を設定する。

④ 計画の具体化(行動計画の作成)

計画の目標達成のために必要な基本施策を設定する。

（3）計画の構成

○当計画は、地域自治区制度に基づき、地域自らが主体的に「自治」を推進するための指針となるよう、地域単位の計画で構成します。また当計画は、次期総合計画の基本構想期間に合わせて、20 年後に目指すべき地域の姿を示めしています。

地域単位での計画

地域の強みを生かし、地域から元気を発信するような内容や多くの地域住民が課題と感じていることの解決策を計画にします。

大井地域自治区

【キャッチフレーズ】

いき（生き）いき（活き）おおい（大井）

【地域の現状】

大井町は恵那市の人口の４分の１以上を有する、市内で１番大きな町であります。JR 中央線の恵那駅や明知鉄道恵那駅があり、中央自動車道恵那ＩＣにも近く、名古屋まで１時間圏内という非常に恵まれた立地条件でもあります。現在建設中のリニア中央新幹線岐阜県駅（中津川市）にも非常に近く、恵那峡スマートＩＣも事業化されて全国から注目される地域の一つになっています。また風光明媚な恵那峡や近代化産業遺産の大井ダムをはじめ、歴史文化の香り漂う中山道、明治天皇行在所といった名所旧跡も存在し、観光都市恵那の一躍も担っています。

反面、こういった豊富な地域資源を生かし、まちづくりに活用していくための人材確保が大きな課題となっています。また、近い将来起こりうるといわれる東南海地震や近年における大雨等の自然災害に対応するためにも、若者人口減少や自治会離れによる町民のコミュニティの希薄化が深刻な問題となっています。

【目指すべき地域の姿（地域の全体構想）】

誰もが安心して暮らせる安全な環境の中で、豊かな自然と歴史文化が息づき、地域の活力を育むまち。住民一人ひとりが心身ともに健康で、四季の移ろいを感じながら心豊かに生活できるまち。子どもたちが地域全体に見守られ、世代を越えたつながりの中で健やかに育つまち。そんな、思いやりと誇りに満ちた、いきいきとしたまち「おおい」を目指し、地域の特性を生かして自主・自立したまちづくりを行っていきます

【計画の柱(基本目標)】

１．安心安全で快適に暮らせるまち

事件・事故・災害による被害防止に未然に取り組んでいきます。リニア中央新幹線開業に合わせた基盤整備に積極的に取り組み、快適に暮らせるまちづくりを目指します。

２．歴史文化と自然が調和した元気なまち

恵那峡や中山道そして個性ある商店街など、大井町内にある地域資源の掘り起こしを行い、市民三学運動に繋げて、町内外の関係人口の拡大を進めるまちを目指します。

３．健康で心豊かに暮らすまち

誰もがいつまでも健康で心豊かに暮らしができるまちを目指します。

４．町民みんなで子育てできるまち

子育て世代とともに町民みんなで子育て支援ができる環境作りを図ります。情報発信や課題の共有に努め、子育てしやすいまちを目指します。

【基本施策】

計画の柱１：安心安全で快適に暮らせるまち

（１）防犯・防災活動の充実

防犯パトロールや防犯・防災に関する区・自治会単位での講習会の開催、啓発活動など、さらに充実した活動を行い、町民が安心して暮らせる環境づくりを行っていきます。

（２）災害時に助け合える協力体制の強化

各種団体と連携を図り、災害時に機能する「自治会を主体とした組織づくり」に取り組んでいきます。災害の未然防止施策として、町民へのハザードマップの周知を行います。また一人一人の避難計画に基づいた共助による防災体制を整えていきます。

（３）リニア開通に向けたまちづくり

建設工事中のリニア中央新幹線沿線住民の安全安心の確保と、新たな基盤整備による快適なまちを目指します。

計画の柱２：歴史文化と自然が調和した元気なまち

（１）中山道や恵那峡などの地域資源の活用

中山道や恵那峡をはじめ名所旧跡（明治天皇大井行在所・中山道ひし屋資料館等）の保存と掘り起こしにより、町民や市内外から大井町を訪れる方々に魅力ある歴史文化を提供できることを目指します。

（２）伝統芸能の保存継承

未来を切り開く子どもたちの参加による大井町芸能フェスタ等を開催し、地域の伝統芸能の保存継承と情報発信に努めます。

計画の柱３：健康で心豊かに暮らすまち

（１）世代を越えた参加が出来る運動の推進

日常的に誰もが気軽に行える運動や魅力あるスポーツを推進します。

（２）心の健康の推進

高齢者の心の健康と生きがいづくり、若年層から中年層のひきこもりなど心の問題に目を向け改善に取り組んでいきます。

計画の柱４：町民みんなで子育てできるまち

（１）子育て世代を中心とした世代間交流の推進

地域・学校・保護者・子どもたちが一緒になって安心して暮らせるまちづくりを目指します。

（２）子育てに関する情報発信の強化と諸課題への対応

子育てに関する様々な問題を町民の課題の一つととらえ、諸課題を共有して解決するよう取り組んでいきます。大井地域自治区のサイトや大井町かわらばんなどを活用し、子育てに関心を持ってもらうように取り組みます。

長島地域自治区

【キャッチフレーズ】

心やすらぐ　心ひろがる　心つながる　まち長島

【地域の現状】

長島町は、中野、正家、永田、久須見、大洞南の５区で構成され、市街地、住宅団地、農村地域など多様な地域が混在しています。本市の中心市街地でもある中野・正家地区は、土地区画整理や都市計画道路などの都市基盤整備が行われ、ショッピングセンターや飲食店が多く、買い物や道路アクセスなどの環境整備が進んでいます。地域内には、中山道や西行に関する遺跡、正家廃寺跡、多くの古墳群など歴史的な資源や恵まれた自然も豊富に存在しています。

しかしながら、少子高齢化や地域活動に対する担い手不足、社会環境・住民意識の変化などにより、自治会未加入者が増加するなど、地域住民の地縁的なつながりは徐々に希薄になってきています。災害時などに対する共助の意識についても低くなってきているため、地域の安全・安心に対する不安や、地域全体の活力についても影響を与えています。こうした長島町の様々な問題に向き合い、発展的なまちづくりを進めていくには、地域住民の意識統一が必要であり、連帯感を持った活動の展開が必要となります。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

加速度的に進む人口減少・少子高齢化に加え、さまざまな社会環境や住民意識の変化などにより、従来から形成されてきた地域のコミュニティーに対する意識は徐々に低下してきています。住民同士のつながりやまとまりを育んでいくことは、これからの地域住民の生活や長島町の活性化を進めていく上ではとても重要なことであり、私たち住民一人ひとりが、長島の風土や歴史・伝統・文化が育んだ暮らしを今一度見つめ直し、「物の豊かさ」だけでなく、「心の豊かさ」や「人と人とのつながり」といった価値観を重視していけるような地域社会を創っていくことが必要です。こどもからお年寄りまで「住んで良かった」「住み続けたい」と思えるように、すべての住民が安心して笑顔で元気に暮らせる長島町を目指していきます。そのために、地域の個性を大切にしながら、住民参画によるまちづくりを基本とし、地域住民や各種団体などがお互いに協力し合い、ともに学習し、地域の魅力を再確認することにより、住民相互の連帯感や地域力の向上を図りながら地域課題の解決に努めます。また、地域計画の目標のもと、地域住民を主体としたまちづくり活動を継続・発展させていくために、地域住民が理解しあえる環境をつくり上げていきます。

【計画の柱(基本目標)】

１．すべての世代が学んで活かすまち

地域に残る歴史的資産などを活用し、すべての世代の人が学べる機会を提供します。また、学んだことを活かせるシステムの構築を図ります。

２．みんなが笑顔で暮らせるまち

高齢・障がい・こども等の各分野で、困りごとを抱える人たちの把握に努め、早期に関係機関へ繋げる体制を整え、地域でのフォローアップの取り組みを充実します。

３．災害・交通事故・犯罪から守るまち

こどもからお年寄りまで安全で安心して暮らせるまちとなるよう、地域住民がお互いに協力し、多様な災害などに対応するための取り組みを進めます。

４．生活しやすいまち

町内の交通渋滞の緩和に向けた対策や交通弱者が安心して移動できる交通インフラの整備等を行政とともに推進します。

【基本施策】

計画の柱１：すべての世代が学んで活かすまち

（１）歴史・伝統・文化の再発見と継承

地域のつながりをより一層深めるため、歴史・伝統・文化・お祭りなどを有効に活用したまちづくりを進めると共に、情報の発信やすばらしい歴史的地域資源として、後世へ継承していくための学習機会などの充実を図ります。

（２）地域を知り、地域に活かす

地域の各種団体と連携し、幅広い世代が地域の歴史・伝統・文化・人・企業・食などを知るために地域の人が参加する機会を増やすイベントや、長島町の良さを他地域の人にも知ってもらうイベントを展開します。

計画の柱２：みんなが笑顔で暮らせるまち

（１）お年寄りが笑顔に

高齢者が元気で安心して暮らせるよう、地域での見守りや支えあい活動、いきがいづくりの取り組みを進めます。

（２）こどもが笑顔に

ヤングケアラーやネグレクト、いじめなど、地域のこどもの変化に気づけるよう、見守り活動やこどもを対象としたイベントなどの取り組みを進めます。また、こどもを含めた地域住民のつながりを深め、安心して暮らせるまちにするため、地域全体であいさつに取り組む「あいさつチャレンジ！」を展開します。

（３）地域サロンなどの充実

元気で楽しく暮らせ、子育てがしやすく、いつまでも安心して暮らせるまちとなるよう、地域で支えあう地域サロンの充実や地域住民のコミュニケーションづくりの場として各種イベントなどの充実を図ります。

計画の柱３：災害・交通事故・犯罪から守るまち

（１）防災機能（長島自主防災組織など）の充実

住民相互の助け合いによる防災機能は、住民意識の変化などにより低下してきています。そのため、災害発生時の初期的対応や平常時の防災に対する住民意識の向上を図るため、各自治連合会及び各区と共に自治会単位の防災組織の充実を図ります。また、地域の防災力の向上を目的として、防災士資格取得者のスキルアップを行い、地域の防災力の向上を図ります。

（２）災害弱者の把握と見守り

高齢者や障がい者などの災害時要援護者が、地域で安心・安全に暮らせ、災害発生時における関係機関への情報伝達などが迅速に行えるよう、地域住民の助け合いである共助の活動の充実を図ります。

（３）交通安全・防犯活動の充実

地域住民がより安心した暮らしが出来るよう、交通事故抑止、振り込め詐欺をはじめとした特殊詐欺や軽犯罪などの抑止を行うため、交通安全活動や防犯活動の充実を図ります。

計画の柱４：生活しやすいまち

（１）長島小学校の建替えの推進

長島小学校は竣工から５０年以上が経過しており、老朽化が進んでいます。早急な建替えを行政に積極的に働きかけを行います。

（２）交通混雑の緩和

長島町には、恵那ＩＣ交差点、坂の上交差点、正家交差点など、渋滞・混雑箇所があります。地域の生活の利便性を確保するためにも、混雑解消に向けた方策を行政とともに推進します。

（３）良質な住宅地の確保

若い世代の他地域への流出を防ぐため、また、他地域の若い世代を長島町へ呼び込むため、環境の整った住宅地の確保を行政とともに推進します。

（４）公共交通の確保

高齢者が増加する中、運転免許証の返納を望む人が返納をためらうことのないよう、地域の公共交通の需要把握に努め、必要な公共交通の配置を行政とともに推進します。

東野地域自治区

【キャッチフレーズ】

人と自然と文化の調和・心やすらぐまち東野

【地域の現状】

（１）東野地域は豊かな自然に恵まれ、市街地に隣接し地理的に便利です。また、地域ぐるみの行事が多く、住民同士の繋がりが強い地域です。子どもの教育に熱心で、地域で子どもを大切に育てていこうとする風潮があり住民の誇りです。

（２）しかし、先人の知恵と努力で守り育てられてきた独自の文化や慣習は、団結力が強く、保守的なイメージがあります。おいしい米の生産地として注目される一方、いわゆる農地を大切にするが故に、道路幅が狭く道路の整備が遅れており、防災面からも心配があります。

（３）また少子高齢化がすすみ、独居生活者や後継者不足による耕作放棄地、空き家等の増加が懸念されます。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

先人たちが守り続けてきた自然や景観の恵みに感謝し、人と人のゆるやかなつながりを基盤に、笑顔と活力あふれる地域を子どもたちの未来へと受け継いでいきます。

そのために、①人と自然が調和したまち、②安全・安心に暮らせるまち、③伝統と文化を未来へ紡ぐまち、④誰もが親しみやすいまちを目指します。

Ⅰ・人と自然が調和したまち

過去から受け継がれた美林、清流などの恵まれた自然環境の中で 各世代が触れ合い、助け合い、人と自然が調和したまちを目指します。

Ⅱ・安全・安心に暮らせるまち

基盤整備やまちづくりの工夫により、災害時の被害を最小限に抑え、早期復旧を図り誰もが安心して長く住める、災害に強い快適なまちを目指します。

Ⅲ・伝統と文化を未来へ紡ぐまち

歴史と文化を「地域の宝」として守り育てながら、住民が互いに認め合い、心が通い合う、文化と伝統が息づくまちを目指します。

Ⅳ・誰もが親しみやすいまち

市街地に隣接する利点を活かし、外部から訪れる方々を温かく迎える取り組みを積極的に進め、市街地に近く不便さは少なく自然とほどよい距離感を持つ「ほどよい田舎暮らし」が出来る誰もが親しみやすい外部にも開かれたまちを目指します。

【計画の柱(基本目標)】

柱１：人と地域をみんなで結ぶ　(地域活動・健康福祉)

地域と人が支え合い、多様なつながりの中で協力し合い、誰もが安心して暮らせる温かな地域社会を築き、外部へ東野地域の魅力を発信します。

柱２：歴史・文化を伝え育む(教育・文化振興)

先人が築いた歴史と文化に学び、暮らしに豊かさと潤いを生み出します。また、郷土を愛する豊かな人材を育てていきます。

柱３：自然を生かし暮らしを守る(生活環境・産業振興)

農地、森林、河川の保全や活用に努め、暮らしを守る施策を積極的に進めていきます。

【基本施策】

柱１：人と地域をみんなで結ぶ(地域活動・健康福祉)

（１）子どもの成長や育ちを支える

家庭や学校、地域が連携し、地域全体で子どもたち一人ひとりの成長と育ちを大切にし、だれもが安心して子どもを育てられるまちづくりを進めます。

（２）支え合いによる安心づくり

住民同士が助け合い、いざという時も日常生活でも誰もが安心できる仕組みや見守りの体制を強化、互いに支え合います。

（３）地域コミュニティ活動の充実

誰もが参加しやすい住民交流とコミュニティセンターを活かした地域コミュニティの活性化を図ります。

（４）情報発信と人口減少対策

豊かな自然や歴史、住みやすさなど地域の魅力を積極的に発信し、暮らしやすい環境整備を通じて、移住・定住の促進や交流人口の拡大に取り組みます。

柱２：歴史・文化を伝え育む(教育・文化振興)

（１）生涯学習の推進

求めて学び生かす生涯学習に積極的に参加し、学ぶ喜びを生活に活かしていきます。

（２）青少年の健全育成

地域の特性を生かしながら青少年の健全な育成を図ります。そのために大人と若者がつながる交流の場づくりを進め、世代を超えた学びや体験を共有しながら、持続可能な地域コミュニティの形成に取り組みます。

（３）生涯スポーツと健康づくり

誰もが健康でいきいきと暮らせるように、一人ひとりが自分の健康づくりに意識を向け、積極的にスポーツやアクティブな活動に取り組みます。

（４）文化活動の推進と継承

先人の知恵に学び、豊かな郷土を築いてきた歴史と文化を次の世代に伝えていきます。

柱３：自然を生かし暮らしを守る(生活環境・産業振興)

（１）住環境の保護・整備・有効活用

東野が誇る緑豊かな生活環境と、ほたるが舞う自然の恵みを未来に受け継ぐため、環境保全に取り組みます。時代の変化や多様なライフスタイルに対応しながら、ほたるが住み続けられる住環境づくりを推進していきます。

（２）安全安心な暮らし

自然災害、火災、交通事故などから暮らしを守るため、安心・安全な暮らしの基盤づくりを推進し、住民一人ひとりが主体的に防災・防犯に取り組む意識を高めます。

（３）観光資源・産業の発掘と振興

「東野といえば、〇〇」と広く認識される観光資源や産業を発掘・ブランド化し、地域の認知度と愛着心の向上を図ることで、東野に住んでいることを誇れるように取り組みます。

（４）農林業の振興

治山事業の重要性を再認識し、農林産物の保護と特産品の生産充実、耕作放棄地対策、担い手の育成を推進することで持続可能な農林業基盤を構築します。地域の特色を生かしたブランド確立と販路拡大、農地の適正利用や農業管理体制の強化を図り、森林資源の育成保育・整備と産業化検討も含め地域経済と産業振興を総合的に推進します。

三郷地域自治区

【キャッチフレーズ】

自然と景観を守り　人と人とが支えあうまち
～安心して住み続けられる三郷～

【地域の現状】

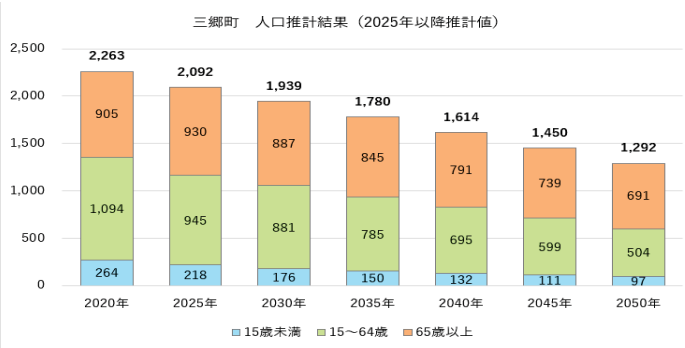
三郷町の人口は、かつて３，３００人を超えていたが、令和２年国勢調査では２，２６３人、人口推計で令和１７年には１，７８０人、令和２７年には１，４５０人になり、高齢化率は、令和２年では４０．０％だったのが令和１７年には４７．５％、令和２７年には５１．０％と予測されています。

急激な少子高齢化の進行、就労の場の不足などにより若者の流出、一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯の増加により、地域全体の活力低下が懸念されています。また、ライフスタイルやニーズが多様化し、地域内のつながりが希薄になりつつあります。

地域において課題を共有し、町民一人ひとりが身近なまちづくりを考え、それぞれの活動や団体・組織が有効にネットワーク化され、主体的に関わり合いを持つことにより、地域の魅力や個性を引き出すまちづくりに積極的に取り組んでいくことが求められていますが、まちづくりに対する理解や意識が十分に浸透していない面も見受けられます。

なお、最近の健康状況を国民健康保険特定健診結果から見ると、血糖値(ヘモグロビンＡ１Ｃ)の高い割合が市内平均より高い、血圧の基準値を超えている割合が市内平均と比較して高い状況となっているなど、健康への取り組みが課題となっています。

将来人口と年齢3区分　別人口の推計



将 来 人 口 の 推 計　　単位：人

三郷町人口推計結果	令和2年	令和7年	令和12年	令和17年	令和22年	令和27年	令和32年
	2020年	2025年	2030年	2035年	2040年	2045年	2050年
15歳未満	264	218	176	150	132	111	97
15～64歳	1,094	945	881	785	695	599	504
65歳以上	905	930	887	845	791	739	691
総数	2,263	2,092	1,939	1,780	1,614	1,450	1,292

高齢化率とは、65 歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合のこと。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

三郷町の美しい自然や景観は、ここで暮らす人びとが住み続け、それを守り育ててきた私たちの大切な宝です。この受け継がれてきた地域の宝をこれから先もみんなで活かして守り育てて、郷土を愛し、誇りに思う心を育み、文化や伝統を次世代に引き継いでいく必要があります。

少子高齢化により、一人暮らしや夫婦のみの高齢者世帯が増加する一方で、三世代同居世帯が減少するなど、家族の支える力の低下や地域における連帯意識が希薄化してきており、行政によるサービスだけでは十分な対応が困難になりつつあります。人口減少に歯止めをかけるためにも行政と地域とが役割分担しながら、子どもからお年寄りまで地域に暮らす人びとが安全に安心して住み続けられるまちづくりを進めていく必要があります。

周辺には、ＪＲ武並駅や中央自動車道恵那ＩＣがあり、中心市街地に比較的近く、田舎ではあるが、車があれば比較的便利な地域です。また、中津川市にはリニア中央新幹線岐阜県駅や中部車両基地の建設工事がすすんでおり、東京―名古屋間の開業が待たれています。

この地の利を活かし、「住み続けたい」「帰ってきたい」「移り住みたい」と思える魅力あるまちづくりを進めていく必要があります。

地域のみんなが課題に関心を持ち、まちづくりを自ら提案し、自ら参加して、お互いに助け合い、協力しながら三郷町の自治力の強化を目指します。

行政ではできない、地域だからできる「人と人との支えあい」により、地域に暮らすみんなが生涯健幸で活き活きと安全に安心して住み続けられ、訪れる人に感動を与え、移り住みたくなるまちづくりを目指していきます。

【計画の柱(基本目標)】

三郷町の２０ 年後の将来像を想い描き、その実現に向けたまちづくりの方向性を、３本の「計画の柱」としてまとめ、９つの「施策の項目」を設定しました。

１．地域の景観・歴史・伝統・文化を活かすまち

地域の自然、歴史、文化などを背景にして、永年にわたり、人びとの日常生活の営みの中で、守り、創り、育まれてきた景観、歴史、伝統、文化を活かしたまちづくり。

２．地域でともに支えあうまち

安全安心で暮らしやすく、未来を担う子どもたちを地域ぐるみで守り育てる。
人と人とがつながり支えあって、生涯を通じて生まれ育った地域で自立した生活ができるよう、健幸寿命の延伸に向け地域で支えるまちづくり。

３．活き活きと住み続けたいまち

地域資源を活用して、人びとが住み続けたい、帰ってきたい、移り住みたいと思えるような魅力ある地域づくりを進め、地域で活き活きと暮らしていけるまちづくり。

【基本施策】

計画の柱１：**地域の景観・歴史・伝統・文化を活かすまち**

（１）施策の項目　**自然景観や農村景観の維持・再生**

地域ぐるみで山や川などの自然が織りなす里山の景観やここで暮らす人びとの生活のなかで育まれてきた農村の景観を守る取り組みをします。

（２）施策の項目　**郷土を愛し、誇りに思う心を育む**

自分の生まれ育った地域に誇りと愛着を持ち続けられる取り組みをします。

（３）施策の項目　**歴史・伝統・文化の伝承**

地域において育まれてきた自然、歴史、遺跡、伝統、文化に加え、家庭と地域の行事、風習、食文化などを次の世代へ継承する取り組みをします。

計画の柱２：**地域でともに支えあうまち**

（１）施策の項目　**地域で支えあうまちづくり**

だれもが住みなれた地域で、生涯健幸で安心して暮らし続けられるように地域で支えあう取り組みをします。

（２）施策の項目　**地域での子育て支援体制づくり**

子育て中の親や子が気軽に集い、遊びや語り合いながら子育ての悩みを気軽に話し合え「三郷で子供を産み、子育てしたい」と思えるような取り組みをします。

（３）施策の項目　**安心して暮らせるまちづくり**

だれもが住みなれた地域で、安全に安心して、夢と希望を持って暮らせる取り組みをします。

計画の柱３：**活き活きと住み続けたいまち**

（１）施策の項目　**人口減少対策の推進**

若者が生活基盤を確立して、夢や希望を持って人生設計ができる環境づくりや町外からの人を受け入れる態勢の充実、人材の育成・活用や交流の拠点づくりをして、定住促進及び少子化対策の取り組みをします。

（２）施策の項目　**地域の自然や景観を活かした観光振興と地域ブランドの発掘**

地域資源を活用した観光振興と、他地域との違いを図りながら、地域イメージを高め地域の付加価値を上げるブランド化の取り組みをします。

（３）施策の項目　**健康づくりの推進**

赤ちゃんからお年寄りまで、だれもが健康で活き活きと元気に暮らし続けられる取り組みをします。

武並地域自治区

【キャッチフレーズ】

「住めば好きになるまち、たけなみ」

【地域の現状】

武並町は恵那市西部に位置し、市内にふたつしかないＪＲ武並駅を擁し、国道１９号・４１８号などの主要幹線道路が交差する交通の要衝です。また瑞浪恵那道路恵那工区やリニア中央新幹線の建設工事も進行しており、今後、地域が大きく変化する可能性を持った地域でもあります。

町内には「恵那テクノパーク」「恵那西工業団地」といった工業団地が立地し、恵まれた産業基盤を有しています。一方で、人口減少や高齢化の進行は避けられず、将来を見据えた明確なビジョンを明確に示し行動しなければ、地域の衰退は避けられない状況にあります。

古き歴史の道「中山道」と最新鋭の交通インフラである「リニア中央新幹線」の整備も進む、伝統と先進が共存する町です。

若い力へのシフトも踏まえ、さらに住みやすい町を目指します。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

交通アクセスと自然環境に恵まれた武並町は、恵那市内の中でも住宅地として発展する可能性を持っています。今後の瑞浪恵那道路などの事業による環境変化を踏まえ、「住環境重視の町づくり」を推進し、人口減少の抑止と、交流人口の増加による地域活性化を目指します。

また、子育て世代の親が安心して働き続けるための通年型学童保育の充実や、子どもから高齢者までが安心して暮らせる、地域が一体となった見守り型福祉活動、「支え愛の会」を中心とした互助活動を推進します。住民一人ひとりがやさしさと思いやりを持ち、住み続けたいと感じ、他市町村の住民も「住んでみたい」と思えるような町づくりを進めます。

ＪＲ武並駅や主要幹線道路を有する利便性を活かし、他の市町村で働く人々の居住地としても選ばれる町となることを目指します。その優位性を活かし、恵那市の人口増加モデル地域となるべく、住みやすい環境づくりを住民自らが考え、実践していきます。

さらに、若い世代が町づくりに参加できる環境や、住民主体の自立した地域活動を推進し、持続可能で活気ある地域社会の実現を目指します。

【計画の柱(基本目標)】

１．地域が見守る福祉のまち

特定の人が福祉活動を行うのではなく、すべての住民が自然体で、子どもや高齢者・体に不自由のある方を守る「思いやりのある」町づくりを目指します。

２．人が行き交う交流のまち

交通アクセスの良さを活かし、県下最大級のスケートリンク「クリスタルパーク恵那スケート場」や歴史的観光資源「中山道」などを核に、人が集い、活気あふれる交流の町づくりを推進します。

３．活気あふれる自立のまち

住民自らが考え、行動する地域自治の精神を強く意識し、財源の確保・経済的自立も踏まえた持続可能な組織・体制作りを進めます。

【基本施策】

計画の柱１：地域が見守る福祉のまち

（１）施策の項目（安心して子どもが育てられるまち）

子どもたちが学校以外でも安心して過ごせる環境を整備します。

登下校時の見守り活動に加え、親や地域住民の目が届く安全な遊び場や公園を活用、共働き家庭等のための通年型学童保育を推進します。

（２）施策の項目（高齢者や体の不自由な方に優しいまち）

高齢化に伴い増加する一人暮らしや高齢者世帯に対応し、配食サービス等を活用した見守り体制の拡充を図ります。自動車の運転ができない方や公共交通機関の利用が困難な地域を対象に、移送のサービスを検討します。

（３）施策の項目（笑顔で住み続けられるまち）

自然や人を大切にし、地域・学校・住民団体が一体となって、明るく健康で安心して暮らせる地域づくりを進めます。

計画の柱２：人が行き交う交流のまち

（１）施策の項目（観光資源の有効活用）

中山道を中心とした地域資源を有効に活かし、歩いて楽しむ観光を提案します。特に藤地区の美しい農村風景については、その保全も含めて有効な活用方法を検討していきます。

（２）施策の項目（人口減少の抑止）

ＪＲ武並駅の利便性や工業団地などの職場環境という地域の特色を活かした町づくりを進めるため、武並駅周辺の整備を検討します。また、市内外からの空き家のニーズの増加に対応し、空き家状況を把握・活用して人口減少の抑止を図ります。さらには、住みやすい地域の特徴を外部に向け、発信します。

（３）施策の項目（武並駅およびその周辺の有効活用）

月極駐車場だけではなく、他町村の周辺住民も駅を利用しやすくなるような一時駐車場の整備など、瑞浪恵那道路の事業に合わせ武並駅周辺の整備を検討します。また、ＪＲを利用した交流イベントの推進を図ります。

計画の柱３：活気あふれる自立のまち

（１）施策の項目（地域特産品の研究・開発）

地域特産品による地域おこしを通じて、住民のやりがいを創生します。遊休施設を活用した加工・販売施設の設置も検討し、六次産業化の推進についても研究を進めていきます。

（２）施策の項目（地域活動組織の改編）

地域振興やイベント開催などに、若者の自由な発想が活かされるよう、従来の組織から改編を推進していきます。

（３）施策の項目（イベントの発信）

規模の大小に関わらず、多様なイベントを実施し、地域の活性化を図ります。特にクリスタルパーク恵那スケート場及びその周辺を活用したイベントを優先的に検討します。

（４）施策の項目（農業振興）

武並町の農業は、高齢化や担い手不足などの課題を抱えています。今後は、農地の集積・基盤整備を進めることで生産の効率化を図ります。また、スマート農業の導入や鳥獣害対策を積極的に推進し、多様な担い手の育成と地域内外との連携強化に努めます。これにより、持続可能で収益性の高い地域農業の確立を目指します。

笠置地域自治区

【キャッチフレーズ】

活気あふれ　皆が住み続けたいまち　かさぎ

【地域の現状】

笠置町は、毛呂窪、姫栗、河合の３区で構成され、笠置山と木曽川の間にあり、自然の資源が豊富で田園風景が広がる地域です。

人口は、平成２７年国勢調査で１，２４３人、令和２年国勢調査では１，１２５人、令和７年４月には１，０７７人となり、高齢化率は、平成２７年で３９．２％が、令和２年では４３．６％、令和７年４月には４６．９％となり、若者の地域離れや出生率の大幅な減少により急激に少子高齢化・過疎化が進行している状況です。このまま人口減少が予測どおり推移すると２０年後の令和２７年には６４６人で、６５歳以上人口は３２７人、高齢化率は５０．６％となり地域の存続がますます厳しくなる状況です。

世帯数減少により、町・区・自治会の運営、地域行事、役の負担も多く、若い世代の地域離れの要因のひとつになっています。

更には、定年延長などの影響もあり、地域活動の担い手不足や高齢化も課題となっています。

【目指すべき地域の姿（地域の全体構想）】

笠置町は、先人たちが築きあげた郷土や伝統、文化、豊かな自然を守りながら、次世代へ引き継ぎ持続可能なまちを目指します。

町民一人ひとりが人口減少の危機意識を共有し、町全体で課題解決に取り組みます。

１．人口減少対策と定住促進

・地域全体で子育てと子どもの育成を支える活動を推進し、定住しやすい環境をつくります。

・地域活動への参加促進のため、高齢化や世帯数減少に伴う地域活動の負担を軽減、町・区・自治会組織の運営や行事を見直し、若い世代や女性が参加・活躍できる体制を目指します。

２．地域資源の活用

・木曽川、笠置峡、栃久保棚田、笠置山といった豊富な自然資源を活用した事業を展開します。

・野生鳥獣による被害を防ぐため、里山の景観保全を進めます。また、ボートやカヌー場を活用した事業のため、木曽川右岸の景観整備に努めます。

３．安心・安全なまちづくり

・災害に備え、地域の自主防災隊による訓練を日常的に行い、緊急時に対応できる体制を整えます。

・青色パトロールや交通安全パトロール、街頭指導を継続し、まちの安全を守ります。また、高齢者の見守りや集いの場づくり、移動支援を進めます。

【計画の柱(基本目標)】

１．活気と魅力あふれる笠置

名所旧跡などの地域資源を最大限活用し、活気と魅力あふれるまちづくりを進め、交流人口や関係人口の推進を図ります。

２．快適で豊かに暮らせるかさぎ

移住定住事業や女性の活躍の場づくり、子育て支援事業を推進するとともに、行事の統一や組織の見直しにより負担軽減を図り豊かなまちづくりを進めます。

森林や農地など地域の自然環境や景観の保全を地域全体で取り組む体制整備を目指します。

３．安心安全に暮らせるかさぎ

地域の支え合いにより、子どもから高齢者まで防災、防犯、交通安全の推進を図ります。

高齢者支援は、パトロールやセンサーなどによる見守り活動、集いの場づくり、買い物や通院などの移動支援を行い、皆が安心安全に暮らせるまちづくりを進めます。

【基本施策】

計画の柱１：活気と魅力あふれるかさぎ

（１）名所旧跡などの地域資源の活用

笠置山の豊かな自然を活かしたボルダリングや笠置峡のボート・カヌー、ゆずの特産品などを市内外に発信しながら、各種イベントの開催や後継者の育成を進めます。

（２）伝承文化と史跡の保存・伝承

地域の財産である伝統芸能や史跡を保存・伝承し、後継者育成に努め、地域住民の絆づくりと地域の魅力発信につなげます。

計画の柱２： 快適で豊かに暮らせるかさぎ

（１）移住定住事業の推進

空き家バンク登録の支援や、空き家情報などをＳＮＳなどで発信し、移住・定住の促進を図ります。

（２）子育て支援

地域全体で子育て支援、子どもの育成を支える活動を行うことにより、子育て世代の定住を進めます。

気軽に子育て相談ができる場所や親子で遊び・学べる場の確保など若い世代が子育てしやすい環境を整えます。また、子ども達の学びや成長を支えるため、地域住民と学校との連携協力体制の充実を図ります。

（３）女性の活躍促進

地域の役職や行事の運営について、女性が積極的に参加・活躍できる体制づくりを進めます。

（４）行事の統一や組織の見直し

年々、人口減少や高齢化などにより、地域の行事や組織運営について、若い世代の負担が増加しています。行事の統一や組織の見直しの検討を進め、負担軽減を図ります。

（５）景観保全

自然豊かな景観を自ら大切にするため、荒廃する森林・農地の保全に努め、水害から地域を守り、里山の魅力を観光資源として活用します。

（６）道路環境整備

地域でみんなの道愛護事業や町内一斉クリーン作戦などを行うことにより、道路環境整備を進めます。

計画の柱３： 安心安全に暮らせるかさぎ

（１）防災減災対策の取り組み

地域防災力の向上のため、防災会議や防災リーダーの育成などにより、自主防災隊などの防災減災体制づくりを進め、災害に備えた防災訓練の実施や避難時の防災備品の充実を図ります。

（２）交通安全防犯活動の推進

地域の支え合いにより、青色防犯パトロール、交通安全パトロールや街頭指導を通して地域の安心安全に努めます。

（３）高齢者支援

ボランティア団体などと連携し、いきいきサロン開催やサークル活動などを推進します。

また、見守りセンサーや配食、青色防犯パトロールなどと連携した見守り支援と、買い物などの移動支援も進めます。

中野方地域自治区

【キャッチフレーズ】

人と自然が醸し合い、生きるを耕す町
～子どもも大人も“生きる力”を育み、成長し続けられる町～

【地域の現状】

恵那市中野方町は、笠置山や坂折棚田など豊かな自然資源に恵まれ、水田農業を中心とした産業が営まれています。地域の一体感があり、住民によるまちづくり活動も盛んで、様々な取り組みを住民主体で行っています。

しかし、少子高齢化と人口減少が進んでおり、特に若者の都市部への流出が多く、これによりまちづくり活動の担い手不足や、行事・住民自治の負担増加が生じています。高齢化が一段と進んでおり、一人暮らしの高齢者の増加や孤立が懸念されています。

地域住民の努力により維持されてきた里山の自然や景観を活かした、持続可能なまちづくりを行っていくことがこれからの課題です。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

中野方町の多くの住民が「自然が豊か」「人とのつながり」を中野方の良いところと考えています。

町の継続と発展には、豊かな自然と地域文化を次世代につなぎ、地域コミュニティの維持と活性化が不可欠です。

今後、人口減少を少しでも防ぎながら、農林業や観光資源などの地域資源を活かした新たな産業の創出や、坂折棚田をはじめとする『つなぐ棚田遺産』に認定された中野方町の棚田群、神秘あふれる笠置山などの地域資源を磨き上げ、効果的に地域内外へ発信します。また、住民の温かさや助け合いを基盤に、食べる・学ぶ・遊ぶ・働く・自然を守るといった生きる力を育む教育・福祉活動を発展させ、多世代が交流する取組を充実させます。こうした活動を通じて多様な人々とのつながりを広げ、誰もがいつまでも住み続けたくなる町を共につくっていきます。

【計画の柱(基本目標)】

１．子どもが主役になれる町にする

子どもたちの声が届き、まちづくりに主体的に関わる経験を育みます。子どもと大人が共にまちをつくる中で、多様な価値観に触れる機会を提供し、子どもが自分らしい未来を描けるまちを目指します。

２．「おきもり」の心で安心して暮らせる町にする

住民同士の助け合いの心を大切に、既存の福祉活動を継続・発展させ、多世代交流を推進することで、誰もが安心して暮らせる町を目指します。

３．誰もが安全で快適に暮らし続けられる町にする

地域の力で安全な道路整備と防災・防犯意識の向上に取り組み、暮らしやすいまちをつくります。さらに豊かな自然や景観を未来に引き継ぐため、環境保全やゴミ減量にも地域一丸で取り組み、中野方町らしい共助のコミュニティを築きます。

４．地域の魅力を誇りにつなげる町にする

里山や河川の整備を進め、自然と暮らしを守ります。地域資源を活かした６次産業化や観光、伝統文化の発信を通じて誇りを育みます。あわせて、自治の見直しや行事の整理を進め、持続可能な地域運営を目指します。

５．多様な人が関わりともに育つ町にする

多様な人が町に関わり合い、交流や体験を通じて地域の魅力を共有し、ともに町を育てていくことを目指します。

【基本施策】

計画の柱１：子どもが主役になれる町にする

（１）子どもと地域のつながりを育む町をつくる

子ども自身が意見を表明し、地域に反映されるプロセスを通して、自分のまちに主体的に関わる経験を積めるようにします。

（２）子どもが未来を描ける学びと出会いを創る

多様な価値観や生き方に触れる機会を通じて、子どもたちが自分らしい未来を自由に描けるような土壌を育てます。

計画の柱２：　「おきもり」の心で安心して暮らせる町にする

（１）住民主体で健康を守り、地域医療を未来につなぐ

住民が主体となって医療・健康情報の発信、健康づくり・予防に取り組み、地域の医療機関や専門職と連携して、未来まで安心できる医療・健康支援の基盤を築きます。

（２）世代を超えて支え合う福祉の輪を広げる

地域の福祉拠点を核に、既存の福祉活動と多世代交流を活発にし、子どもから高齢者まで誰もが支え合えるコミュニティをつくります。

計画の柱３：誰もが安全で快適に暮らし続けられる町にする

（１）安全・安心な生活基盤を整備する

住民の安全・安心な暮らしを確保するとともに、災害時の避難経路や緊急車両の通行確保を図るため、狭い道路の計画的な整備を行政及び住民との連携のもと推進します。

（２）自分たちの町は、自分たちで守る意識を高める

災害発生時に地域が連携して対応できるよう、防災意識の向上や自主防災活動の充実を図ります。また、普段から高齢者や子どもへの見守り活動を行い、防犯活動にも力を入れます

（３）環境や景観を守っていく

豊かな自然環境と伝統的景観を次世代に継承するため、環境と景観の保全を継続的に行います。また、ごみの減量と再資源化を推進します

計画の柱４：地域の魅力を誇りにつなげる町にする

（１）里山の恵みを活かす

里山や河川の整備を行うことで、山林の災害防止や水源の機能を高めるとともに、昔ながらの里山風景を存続し、日常生活で自然と触れ合える環境づくりを進めます。また、地域農産物等を活用した６次産業化を進めます。さらに、めれた囃子や杵振り踊り、黒瀬街道などの歴史・文化資源の保存活動を行い、その魅力を次世代へ伝えるための活用や発信にも取り組みます。

（２）里山の魅力を磨く

坂折棚田や笠置山のペトログラフ・巨石群、望郷の森などの観光資源の磨き上げや地域内外へその魅力を発信していきます。

（３）自治を活性化させる

人口が減っても、自治区の機能を維持できるよう、区、役割、行事の見直しを行い、若者が地域参加しやすい環境を整えます。

計画の柱５：多様な人が関わり、ともに育つ町にする

（１）町の魅力を伝える

地域の魅力や人のつながりを整理・見える化し、広く伝える仕組みをつくり町の魅力を発信します。

（２）町に仲間を増やす

短期滞在やボランティアなど、町に住まなくても参加できる仕組みを整え、町の仲間やファンを増やします

（３）町とつながる居場所をつくる

空き家や施設を活用し、町の暮らしを気軽に体験できる居場所をつくり、多様な人と地域の交流を促進します。

飯地地域自治区

【キャッチフレーズ】

みんなの想いを重ね合わせて、子どもの声が響くまちへ

【地域の現状】

飯地町では人口が５３０人程となり、少子高齢化が急激に進んでいます。このまま推移すると、２０年後には人口が半減し地域の存続が危ぶまれます。

また、地域づくりを担う人材も高齢化しており、行事や役の負担が過大になってきています。

令和５年度に五毛座が大規模改修され、コンサート会場などで利用されるなど新たな活用の姿も見えてきました。また、新たな地域資源として市政を飯地町地縁団体で取得するなど、地域資源の活用による地域の活性化が期待されます。

新丸山ダム建設事業に伴う付替国道４１８号の整備は、中濃、岐阜地域へのアクセスを向上させ、交流人口の拡大や物流の効率化など地域の活性化を飛躍的に向上させることが期待されます。また、その効果を最大限に引き出す為、市内中心部に向けた県道恵那八百津線の早期整備が望まれます。

里山バスは、高齢者や子どもなどの交通手段として利用され、町内唯一の商店である飯地商店は、地域住民の交流の場となっています。

今後まちを存続し、次世代に引き継ぐためには、人口減少に歯止めをかけること、とりわけ若者やこどもの数を増やして行くことと将来予測人口に見合った生活基盤の再整備、地域資源の有効活用による交流・関係人口の拡大が最重要課題です。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

今いる若い世代が安心して住み続けられるよう、宅地や住宅の確保をはじめとした環境整備を進めます。また昨今、都市住民のあいだに「田舎暮らし志向」が高まっていることから、こうしたＩターン希望者を積極的に受け入れるとともに、町出身者のＵターンをあたたかく迎え入れる体制をつくります。

さらには、安心して子育てができるよう、「まちぐるみでの子育てサポート体制」を整備することで、子育て世帯の増加を図ります。

また、高齢化が進む中、高齢者に優しいまちづくりも必要です。里山バスによる交通手段の確保、飯地商店を通した生活必需品の購入、交流や憩いの場の確保と医療体制の確保を図ります。

【計画の柱(基本目標)】

１．みんなが住みたくなるまち、住み続けられるまちへ　～移住定住環境の整備
２．まちぐるみで“子育て”と“生きがい人生”をサポート　～子育て支援と高齢者支援
３．足元の魅力に磨きをかける“飯地まるごと再発見”　～地域資源の活用と交流促進
４．達成感を感じられる組織体制と自由闊達な気風づくり　～組織変革と参画促進

【基本施策】

１．みんなが住みたくなるまち、住み続けられるまちへ　～移住定住環境の整備

（１）定住の促進

今いる若い世代の人たちが結婚やお子さんの誕生などを機に家を飯地町内に建て、住み続けることができるように、宅地や住宅を確保し、情報を発信します。

加えて、移住者を呼び込むために、空き家の確保や、古民家リフォーム塾などを並行して行います。また移住者が地域に溶け込めるよう、地域面談や、風習や行事の情報提供を行うなど、移住者とまちの人たちが良好な関係を築けるようなサポート体制をつくっていきます。

このような受入体制を充実させ、みんなが住み続けられるまちにすることで、一旦飯地を離れた人たちも帰って来たくなるまちになっていくことを狙いとします。

（２）安心快適なまちづくり

飯地は犯罪・交通事故などが少ない、安心安全のまちと言えます。

しかし、地震、豪雨などで道路が分断すれば、地域が孤立してしまう恐れもあります。各自治会の少ない人数の中で、各自の役割を決め、助け合う防災体制を組織することが必要です。また、高齢者世帯が多く、夜間も人通りが少ないことから、防犯に対する取り組みも検討していきます。

加えて住民が不便と感じている、道路などの生活基盤の整備についても積極的に要望をしていきます。

２.まちぐるみで“子育て”と“生きがい人生”をサポート　～子育て支援と高齢者ケア

（１）子育てと子供の成長をサポート

子育て世代の意見を積極的に取り入れ、「子育てが楽しくなるまち飯地町」とＰＲできるようなまちを目指します。

そのために、町内の人たちが空いている時間や得意分野を活かして託児や産前産後サポートをしたり、習い事・勉強を教えるなど「飯地町内でできる」子育て安心サポート体制を作ります。そこに高齢者も活躍してもらうことにより、高齢者の生きがいづくりにもなる一石二鳥の仕組みをつくります。

また、ふるさと教育を通じて次代を担う子ども達が自分の地域を誇りに思えるようにします。

（2）高齢者の生きがいづくりとケア

高齢者が健康を維持し生きがいを見つけられるよう得意分野を活かし、活躍できる場を提供していきます。

また高齢者が介護状態になるのを防ぐ取り組みを推進するとともに、万が一要介護となった場合でも、本人も介護者も安心して生活できるよう、地域密着型の介護施設を要望していきます。若者が生活基盤を確立して、夢や希望を持って人生設計ができる環境づくりや町外からの人を受け入れる態勢の充実、人材の育成・活用や交流の拠点づくりをして、定住促進及び少子化対策の取り組みをします。

3．足元の魅力に磨きをかける“飯地まるごと再発見” ～地域資源の活用と交流促進

（1）まちの魅力発見・発信

飯地に暮らしている人々と町外の人々が一緒になって、自然や食文化、地歌舞伎などまちの魅力を再発見し、ともに楽しむことで、その楽しさがあふれ出て、町の魅力を発信していくことをめざします。また老朽化した施設にもみんなで手を入れることによって、魅力的な交流拠点として再生します。

特に、飯地の自然は大きな魅力の一つです。その自然とは、人の手が入ってこそ生まれる里山の景観と考えます。それらは田舎ぐらし希望者の求める要素の一つでもあることから、農業・間伐体験など飯地の人が活躍できる交流体験型のイベントを開催し、一緒になって楽しむことでまちへの愛着や誇りを育みます。その体験がきっかけとなり、定住者が増え、間伐・耕作放棄地の解消など農林業の担い手が育っていくような施策の展開をすすめていきます。

（2）自立に向けた事業づくり

行政の財政が厳しくなる中で、まちづくりに使える金額も限度があります。

行政に頼らない自立した地域づくりを進めていくために、まちづくり資金を捻出する事業展開を進めていきます。

また地元で生業が継続できるように、商工会などを中心とした地域通貨などを検討していきます。

4．達成感を感じられる組織体制と自由闊達な気風づくり ～組織変革と参画促進

（1）組織体制・事業の見直しによる負担軽減

自治会、各種団体組織の活動について、リーダーが高齢化していることや、行事や役が多く負担という声が多くあるとともに、世代間の交流も乏しく情報共有が十分でないなど課題があります。また消防団の活動や内容について検討する必要があります。

そのためには地域協議会と自治連合会の一本化など人口規模に見合った組織体制、事業の選択と集中を進めていきます。

（2）自由に語れる気風づくり

世代を超えた交流や、自由な雰囲気で意見交換を行う場がきわめて少ないため、新しい意見や、変革を促す意見が熟考されずに見過ごされています。その事が、若い世代の「押し付けられ感」や「無気力感」の原因となっています。

これを解消するため、世代を超えて自由に意見交換のできる場をつくり、自発的にまちづくりを担う人が育つ気風をつくっていきます。

●施策相互の相乗効果について

それぞれの施策は縦割りで機能を発揮するのではなく、相互に関係しあいながら、効果を発揮しあい、年月を重ねるごとにより良いものへと町が変化していくことをねらいとしています。

たとえば、組織改革で役や行事の負担が減った人が、空いた時間を子育てサポートに使い、若いお母さんたちが安心して子供を預けられるようになれば、その人たちが町の魅力発信や、移住者サポートなどやってみたい活動に挑戦し、まちを元気にしてくれます。

移住者サポート体制が整い、移住者が増えると、いままで町の人たちが気付かなかった魅力を発見したり、これまで知らなかった新しい情報や手法を取り入れることができたりします。それによりまちがもっと自由な雰囲気に変化する可能性もあります。

このように、それぞれの施策が単独でなく、お互いにからみあいながら、どんどん住みやすい、充実感いっぱいの魅力的な町へと上昇していくことを目標としています。

岩村地域自治区

【キャッチフレーズ】

“消滅しないぞ　いわむら”
～自然とともに人が輝き、人が財産となるまち～

【地域の現状】

岩村町には、日本百名城に認定され、日本三大山城でもある「岩村城跡」と国の重要伝統的建造物群保存地区に選定された「岩村町本通り」、農村景観日本一の称号を持つ「富田地区」など、『歴史的価値の高い観光資源や豊かな自然環境』に恵まれたまちです。

また長い歴史の中で多くの偉人も輩出しており、幕末の儒学者である「佐藤一斎」や実践女子学園の創設者である「下田歌子」、植物学者の「三好学」など、その教えを継承した取り組みなど推進してきた『文教のまち』でもあります。

令和元年度には、佐藤一斎先生の教えを生かした取り組みとして実施してきた郷土学習「自分とふるさとを愛する子を育てる『岩村プラン』」が、地域学校協働活動において優れた成果を収め、社会総がかりでの教育実現に貢献したことが認められ文部科学大臣賞を受賞しました。

観光面では、岐阜県が取り組んできた地域が誇る自然や歴史、文化等の資源を掘り起こし、全国に通用する観光資源として磨き上げる「岐阜のもの認定プロジェクト」の中で、平成２０年度には「岩村城跡と岩村城下町」が『じまんの原石』に、平成 23 年度には『明日の宝もの』に選定されました。さらに平成２９年度には東美濃の山城として苗木城跡と美濃金山城跡とともに「岩村城跡と岩村城下町」が『岐阜の宝もの』に認定、令和５年度には、世界から選ばれる旅先となり得る地域・観光プログラム「NEXT GIFU HERITAGE～岐阜未来遺産～」に『恵那岩村の山城・城下町と農村景観めぐり』が、岐阜県の第１号として認定を受けました。

内外から評価を受ける反面、市内他地域と同様に少子高齢化や人口減少といった課題にも直面していますが、先人の先駆的な取り組みや地域の魅力を最大限活かしたイベントの開催などにより、まちの活気や活力は維持しつつ、まちづくりは継続されています。しかしながら、持続可能なまちづくりに必要となる自己財源の確保や人材の確保・育成などが追いついていない状況があるため、課題解決に向けた取り組みが急務となっています。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

○ちょうど良い街を目指す　～住民と来訪者、双方にとって快適なまち～

１．地域の課題解決に真っ向から取り組むまち

・継続的な課題対策に伴う検証と新たな課題を拾い上げ、今後の将来像を見出します

２．持続可能な観光を目指すまち

・中長期的な観光まちづくり指針として策定された「いわむらグランドデザイン※１」の進捗管理や「フィールドミュージアム化※２」構想の具現化へ取り組みます

３．子どもから高齢者まで活き活きと暮らせるまち

・「岩村地区福祉計画」に位置付けられた事業の進捗管理を実施します

４．安全・安心に過ごせるまち

・地域共生社会づくりの実現を目指し、将来にわたり住み続けられる仕組みを構築します

５．循環型社会を見据えたまち

・資源を大切に使う、再利用するといった観点から特に地域内で資源がサイクルする方策を展開します

【計画の柱(基本目標)】

計画の柱１．地域課題の把握と解決に向けた取り組み

直面する喫緊の課題として避けては通れない「人口減少」に対し、岩村らしい移住者の受け入れ体制の構築や元々住んでいた地域住民があらためて住んで良かったと思える地域独自の対策を展開していきます。

「人口減少」は地域の存続にも関わる大きな課題でありますが、それ以外の課題も拾い上げ、出来ることから実行に移していきます。

計画の柱２．持続可能な観光まちづくりの推進

岐阜県より世界から選ばれる観光地となることが期待できる未来の「デスティネーション※３」として『岐阜未来遺産』に認定されたことを受け、将来にわたり持続可能な観光地となるよう取り組みを展開していきます。

地域だけの取り組みでは限界があるため、官民協働により「観光地いわむら」を更にブラッシュアップ※４していきます。

計画の柱３．子育て世代や高齢者への支援

少子化が進む中、子育て世代が住みたいと感じられる環境整備を行政とともに取り組んでいきます。

また高齢化の進展により老々介護などの課題が顕著となるなか、より一層住民同士で支え合える仕組みの構築を目指していきます。

計画の柱４．地域共生社会づくりの実現

制度・分野ごとの縦割りや支え手、受け手という関係を超えて、地域住民や地域の多様な主体が参画し、人と人、人と資源が、世代や分野を超えてつながることで、住民一人ひとりの暮らしと生きがい、地域とともに創っていく社会の実現を目指していきます。

また各地域で問題視されている「自治会加入率」の低下に関しても、共生社会を構成するうえで重要な要素であるため、自治会未加入者へ理解を求めていきます。

計画の柱５．SDGs※５の推進

持続可能な開発目標（SDGs）は、貧困や不平等・格差、気候変動などのさまざまな問題を根本的に解決することを目指す世界共通の 17 のゴールと 169 のターゲットで構成された国際目標です。令和４年度に恵那市は「SDGs 未来都市」を宣言しているため、地域としても SDGs の推進に向け、積極的に取り組んでいきます。

特に『歴史的価値の高い観光資源や豊かな自然環境』を後世に残していけられるようパートナーシップ※６で目標を達成していきます。

【基本施策】

計画の柱１：地域課題の把握と解決に向けた取り組み

（１）人材確保【育成】

まちづくりの担い手の確保や次世代の人材を育てる取り組みを展開します。また他地域との文化や人材の交流を深めるとともに、移住者にも関わってもらう仕掛けを構築していきます。

（２）空き家対策

いわむら空き家対策委員会を中心として、具体的な取り組みを推進します。特に岩村城下町と田園地帯では空き家に対するニーズが違うため、貸（売）主と借（買）主のマッチング方法を確立していきます。

（３）郷土愛を育む【地元に誇りを持つ】

郷土の先人の教えや歴史を学ぶ機会を設け「郷土愛」を育む取り組みを推進していきます。

（４）若者が地元で活躍できる仕掛けづくり

官民協働による雇用の創出や地元を離れても帰ってきたくなるイベントなどを企画していきます。

（５）地域おこし協力隊員の導入

恵那市では、５年振りに「地域おこし協力隊」の導入がスタートしたため、岩村地域においては『持続可能な観光』の旗振り役となるような人材に特化した形で隊員の導入を目指します。

計画の柱２：持続可能な観光まちづくりの推進

（１）いわむらグランドデザイン～観光まちづくり指針～の進捗管理

指針に位置付けられた事業の進捗管理を実施しつつ、時代にマッチした新たな取り組みも展開します。

（２）フィールドミュージアム化※2構想の具現化

第２期恵那市歴史的風致維持向上計画※7で定める風致範囲を構想の対象として屋外博物館としての定着を目指します。

（３）岩村城跡・飯羽間城址の保存と景観対策

岩村町のシンボルである「岩村城跡」の国指定史跡を目指すとともに、山城として存在価値の高い「飯羽間城址」もブラッシュアップ※4していきます。

（４）外国人の誘客対策

岐阜未来遺産の認定を受け、インバウンドの増加が見込まれることから受け入れ態勢を強化していきます。

（５）新しい観光資源の活用・リピーター対策

山城をキーワードとした広域連携や観光地いわむらに何度でも訪れたくなる仕掛けづくりを展開していきます。

（６）体験プログラムの充実

「いわむら五っこ」を観光客向けの体験コンテンツとして充実させ、岩村らしい体験プランを提供し、滞在時間の延長に繋げます。

（７）国際認証の取得に向けた取り組み

世界から選ばれる観光地として認知度を高めるためにも国際的な観光認証制度「Green Destinations※8」の TOP100 の取得を目指します。

計画の柱３．子育て世代や高齢者への支援

（１）世代を越えた参加が出来る運動の推進

計画に位置付けられた事業の進捗管理を実施し、時代にマッチした新たな取り組みも展開します。

（２）子ども同士や地域住民との交流機会の創出

地域学校協働活動本部を中心に「学校を核とした地域づくり」を目指して、学校と地域が相互にパートナーとして連携・協働して様々な活動を行います。

（３）多目的広場（公園）の整備

防災の機能やイベント広場などの機能を併せ持つ公園整備を小学校やこども園に近い場所で検討していきます。

（４）学童施設のあり方検討と整備

地域内に２ヶ所ある学童施設が小学校から離れているため、利用者が安心して通える場所での施設整備を検討していきます。

（５）高齢者のための支援体制の構築

高齢者世帯での「ちょっとした困り事」に対応するため、恵那市社会福祉協議会岩村支部との連携により支援体制を構築していきます

計画の柱４：地域共生社会づくりの実現

（１）地域コミュニティの再構築

自治会の加入率が市内でも低く、地域内での相互の関係性が希薄化する中、防災などを切り口として、自治会未加入者に対し、理解を求めていく取り組みを推進していきます。

（２）交通手段の確保

恵那市で運行している「岩村デマンド交通」の更なる利用者の拡大と利便性の向上を図り、交通弱者の対策を図ります。

また地域からタクシーが撤退したため、行政とともに対策を協議します。

（３）住みやすい環境の確保

防災や減災に強いまちを目指し、自主防災組織である岩村町自主防災隊を中心として「岩村地区防災計画」に沿った取り組みを推進します。

特に伝建地区※4の防火対策は、景観を維持するうえで、非常に重要であるため、「伝建地区防災計画」に位置付けられた取り組みを展開します。

（４）心と体の健幸

岩村町スポーツ協会などを中心として体力づくりの取り組みを推進します。また恵那市が推奨する各種健診を含む健幸事業への参加を促していきます。

（５）自動運転実証実験の推進

次世代の交通手段として期待される「自動運転レベル４」の社会実装を目指し、恵那市とともに取り組みを推進していきます。

（６）【仮称】岩村地域ポイント制度の確立

ボランティア活動に参加した対価として、地域限定のポイントを付与し、粗品に交換できる仕組みを構築することでボランティアの確保に繋げていきます。

計画の柱５．SDGs の推進

（１）資源回収拠点施設の利用促進

地域でのまちづくりや学校活動における重要な財源となりつつある「城下町クリーンステーション」の収益金を増やす取り組みを推進していきます。

（２）地域内の環境美化（町内一斉清掃、井浚）の推進

岩村地域の豊かな自然や素晴らしい景観を保全する取り組みの一環として岩村町自治連合会が主体となり、毎年「町内一斉清掃」が実施されているが、草木の除去だけではなく井浚作業に取り組む仕組みも構築していきます。

（３）既存施設（福祉センター風呂など）の利活用の提言と実践

活用しきれていない公共施設や町家などを官民協働で利活用できるような方策をまとめ実践していきます。

また岩村地域自治区からの提言により整備が実現した「まなぶ拠点施設※10」の利用促進や施設のＰＲ活動などを施設管理者とともに取り組みます。

（４）豊かな自然環境の保全活動

農村景観日本一の称号を持つ「富田地区」の景観構成上重要な建物である『茅の宿とみだ』を後世に残していくため、地域外からのサポートを受けながら活動を展開していきます。

【注釈】

※１：グランドデザインとは…長期的な視点で描かれる壮大な全体構想や計画

※２：フィールドミュージアムとは…特定の地域を対象とし、その土地の自然・歴史・文化・生活・技術などを「生きた博物館」として捉え、屋外に点在する資源を活かして、展示やイベント、調査研究などを行う屋外博物館

※３：デスティネーションとは…旅行者が「そこへ行きたい」と思わされるような魅力的な「旅行先・観光地」を指す言葉

※４：ブラッシュアップとは…すでにあるものや現状を「より良くする」「磨きをかける」という意味を持つ言葉

※５：SDGs とは…「持続可能な開発目標」の略称で、2015 年に国連で採択された、2030 年までに「誰一人取り残さない」持続可能でよりよい世界を目指す国際目標

※６：パートナーシップとは…個人または複数の組織が、対等な立場で共通の目標達成や相互の利益を追求するために協力・連携する関係

※７：恵那市歴史的風致維持向上計画とは…恵那市では、平成 20 年 11 月 4 日に施行された「地域における歴史的風致の維持向上に関する法律」（通称 歴史まちづくり法）に基づいて「恵那市歴史的風致維持向上計画」を策定し、平成 23 年 2 月 3 日付けで、国（国土交通省、文部科学省、農林水産省）に同計画の認定申請を行い、平成 23 年 2 月 23 日に認定を受けました。既存のものにさらに磨きをかけ、改良して質を高めること

※８：Green Destinations とは…持続可能な観光地、そのビジネス、コミュニティを支援するためにオランダに設立された組織

※９：伝建地区とは…重要伝統的建造物群保存地区「恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区」の略

※10：まなぶ拠点施設とは…旧岩村振興事務所庁舎を「佐藤一斎學びのひろば」「恵那市中央図書館岩村分館」「（仮称）恵那市歴史博物館」として整備した施設全体の名称

山岡地域自治区

【キャッチフレーズ】

未来へつなぐ　緑と暮らしのまちづくり

【現状と課題】

山岡町は、古くから「寒天」「陶土」「農業」の三大産業が栄え、特に天然細寒天の生産量は日本一を誇り、現在も冬の風物詩として親しまれています。陶土では、良質な耐火粘土が産出され、農業ではいち早く土地改良に取り組み、しっかりとした基盤を築いてきました。「道の駅おばあちゃん市山岡」や「飯高観音」など、恵那市を代表する観光スポットのほか、自然豊かな「イワクラ公園」や「山岡駅かんてんかん」「陶業文化センター」など、町の特色を活かした施設が点在しています。里山の風景や豊かな自然環境は、多くの町民が誇りに思い、大切にしたい山岡の宝物です。

一方で、人口減少や少子高齢化が進行しており、後継者不足による農地や山林の荒廃、空き家の増加、交通手段の確保や独居世帯の増加など、将来への不安が大きな課題となっています。

今後は、住民一人ひとりがまちづくりに積極的に関わることを促すとともに、住民・行政・企業がそれぞれの立場や能力を活かし、互いに協力しながら、効果的かつ効率的なまちづくりを進めていくことが求められています。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

山岡町は、特色ある観光施設や交流施設を有し、自然環境にも恵まれています。さらに、細寒天や陶業文化など、他地域にはない魅力的な資源も存在しています。これらの特色ある資源を有機的に結びつけ、さらに磨きをかけることで、誰もが山岡町に誇りと愛着を持ち、「多くの人が訪れる活気あるまちづくり」を目指します。

また、助け合い・支え合いの心を大切にし、こどもから高齢者まで、将来にわたって安心して快適に暮らせるまちづくりを推進します。

さらに、さまざまな取り組みを通じて出生率の向上や若年層の転出超過の改善を図り、人口減少を緩やかにするとともに、たとえ人口が減少したとしても、住み慣れた地域での生活を継続し、幸せに暮らせるまちづくりに取り組みます。

この実現には、多様な視点を持つ住民の参画が不可欠です。自分たちの地域のことは、まず自分たちで考え、自ら取り組むという姿勢から、生き生きとした知恵や活動が生まれてきます。地域の人々の思いが詰まった仕組みづくり、地元の魅力の掘り起こし、多彩な活動による創意工夫、人材育成、情報発信などにも積極的に取り組んでいきます。

【計画の柱(基本目標)】

１．こどもが健やかに育つまち　～みんなで育てる山岡っ子～
（１）地域ぐるみで取り組む体制づくりと事業展開
（２）世代を超えた交流機会の提供
（３）地域連携による交流・体験の機会の提供
（４）歴史・伝統・文化の保存と伝承

２．安全で安心して暮らせるまち　～助け合い・支え合い・人と人が結び合う～
（１）健康寿命１００歳大作戦
（２）食べて、笑って、挑みて、楽しむ高齢期
（３）あんきに暮らせる「あんじゃない」のまち
（４）自らの行動による、安心・安全・快適なまちづくり

３．「よいところ」を活かすまち　～地域資源で賑わい創出～
（１）地域資源を活かした交流機会の提供
（２）特色を活かした交流・関係人口の拡大推進
（３）山岡駅周辺の活性化と賑わいの創出

４．みんなでつくる活力あるまち　～みんなの知恵と行動を集める～
（１）新たな仕組み・雰囲気づくり
（２）外部人材の活用
（３）連携による人口減少対策

【基本施策】

計画の柱１：こどもが健やかに育つまち　～みんなで育てる山岡っ子～

（１）地域ぐるみで取り組む体制づくりと事業展開

町内には、こどもたちに関わる多くの組織や団体があり、こどもたちを対象にした事業やイベントも展開されています。

これらの組織や事業が相互に連携し、より効果的かつ効率的な取り組みを推進します。

（２）世代を超えた交流機会の提供

地域や異世代の人々とのふれあいの機会は、こどもたちに地域への誇りと愛着を育むとともに、豊かな人間性を育てることができます。また、高齢者の持つ知恵や技術の活用は、高齢者自身の生活にも潤いをもたらします。

世代を超えて地域の文化や歴史に触れられる機会や、イベントなどで交流できる場を提供していきます。

（３）地域連携による交流・体験の機会の提供

恵那南中学校が恵南地域に新たに開校したことを踏まえ、今後さらに他地域との交流機会の提供が必要です。

近隣地域の文化・歴史・先人に触れ、学ぶ機会を提供するとともに、近隣地域を繋ぐ明知鉄道を活用した交流の機会も提供していきます。

（４）歴史・伝統・文化の保存と伝承

町内には、爪切地蔵尊奉納花火、白山比咩神社・春日神社での獅子舞奉納、地歌舞伎、寒天の突き出し風景など、昔ながらの貴重な歴史や伝統が守られ、地域行事や食文化が伝承されています。しかし、後継者不足が深刻化しており、次世代への伝承が難しくなっています。

地域のさまざまな場面で、山岡だけでなく恵南地域の歴史や伝統、文化に触れられる機会をつくることにより、これまで大切に受け継がれてきた文化を守り、次の世代へつなげていく人材を育てていきます。また、世代を超えて交流できる場も広げていきます。

計画の柱２：安全で安心して暮らせるまち　～助け合い・支え合い・人と人が結び合う～

（１）健康寿命１００歳大作戦

すべての住民が健康でいきいきと暮らすことは共通の願いです。

若い世代から高齢者までが健康づくりに関心を持てるような取り組みを進めるとともに、既存の健康増進施設の活用を促進し、誰もが主体的に健康づくりに取り組める環境を整備して、健康寿命の延伸を図ります。

（２）食べて、笑って、挑みて、楽しむ高齢期

人とつながる機会が多いほど、元気に楽しく過ごす力になります。

高齢期をいきいきと豊かに過ごせるよう、サロン活動の支援や高齢者の多様な社会参加を促進し、その能力を発揮できる環境づくりを進めます。

（３）あんきに暮らせる「あんじゃない」のまち

高齢化率は年々上昇しており、今後もさらに高くなると予想されています。

高齢者が住み慣れた地域でいきいきと暮らせるよう、また、買い物や通院など、高齢者世帯や独居世帯が安心して「あんき」に暮らせるよう、地域で支え合う仕組みの構築と関係機関との連携強化を図ります。

（４）自らの行動による、安心・安全・快適なまちづくり

地震リスクの増加や豪雨災害の頻発により、住民の防災意識が高まっています。

「向こう三軒両隣」の近助の意識を高め、地域で支え合う仕組みの構築と関係機関との連携強化を促進し、防災・防犯対策の充実を図ります。

また、豊かな自然環境を次世代に引き継ぐ活動や、循環型社会の実現に向けた取り組みが、より効率的・効果的になるよう、行政などとの協働を推進します。

計画の柱３：「良いところ」を活かす街　～地域資源で賑わい創出～

（１）地域資源を活かした交流機会の提供

地域資源を活かした持続可能な地域運営が求められています。

農業、林業、里山、豊かな自然環境、そしてそこに根付く技術や知恵を活かした基幹産業の振興を図るとともに、体験型ツアーやイベントなどの交流機会を提供することで「山岡のファン」を増やし、定住人口の増加につなげます。

（２）特色を活かした交流・関係人口の拡大推進

細寒天や陶土、またそれらの関連施設は山岡ならではの特色を持っています。

商工会や観光協会などの関係機関と連携を深め、「道の駅」、「飯高観音」、「花白温泉」、「陶業文化センター」などと組み合わせた特色ある事業を推進し、地域の魅力を効果的に発信することで、交流人口および関係人口の拡大を推進します。

（３）山岡駅周辺の活性化と賑わいの創出

山岡駅周辺には、「山岡駅かんてんかん」や「イワクラ公園」など、人が集い交流する拠点として魅力的な施設が整備されています。

これらの施設を明知鉄道と連携して結びつけ、賑わいの創出を推進します。

計画の柱４：みんなでつくる活力あるまち　～みんなの知恵と行動を集める～

（１）新たな仕組み・雰囲気づくり

多様な住民が参画できる仕組みづくりが求められています。

住民のまちづくりへの関心を高めるとともに、まちづくりに意欲のある人や若者など、さまざまな住民が参画し活躍できる体制づくりを進めます。また、継続的な活動を支えるため、人材育成を推進します。

（２）外部人材の活用

地域活性化には、さまざまな視点が必要です。

地域おこし協力隊などの外部人材を活用し、地域の活性化を図ります。

（３）連携による人口減少対策

移住・定住の促進による人口減少対策が必要です。

市が実施する移住定住促進事業と連携し、交流人口や関係人口の拡大を図るとともに、恵南地域とも連携しながら、移住希望者への相談・サポート体制の充実を進めます。さらに、若い世代が町内に住み続けられるような取り組みも推進します。

明智地域自治区

【キャッチフレーズ】

「活気と笑顔があふれる 安心なまち」
～自然の中で大正ロマン、戦国ロマン薫るノスタルジア～

【現状と課題】

明智町は、豊かな自然、明知城や日本大正村といった歴史・文化資源を有する地域であり、住民同士の協力体制も強く、地域イベントの成功に向けた結束力があります。近年では、若者世代による地域活動の芽も見られ始めており、地域の未来に向けた新たな動きが少しずつ生まれています。しかし、人口減少と高齢化が急速に進行しており、平成１７年（２００５年）の6，７１９人から令和7年（２０２５年）には4，４９３人まで減少。空き家や耕作放棄地の増加、学校統合による教育環境の変化、地域経済の衰退などが深刻な課題となっています。若者の流出により地域活動の担い手が不足し、イベントや行事の継続が困難になるほか、地域コミュニティの活力も低下しています。観光面では、地域資源の活用が不十分で、観光客数の減少が続いています。観光による収益の地域内循環も弱く、持続可能な観光振興の仕組みづくりが求められています。交通インフラの整備も遅れており、豊田市方面との道路接続、明知鉄道の利活用、リニア中央新幹線との連携など、広域的なアクセス改善が必要です。これらは移住促進や地域経済の活性化にも直結する重要な要素です。また、子育て・福祉環境の充実、防災・防犯意識の向上、地域助け合いの仕組みづくりなど、安心して暮らせるまちづくりに向けた支援体制の強化も求められています。地域の誇りや魅力を次世代に継承するためには、学校との連携による地域教育の充実、歴史・文化・伝統芸能の学びの場の整備、体験型観光の推進などが必要です。これらの課題に対し、地域全体が協力し、若者世代の参画を促進しながら、持続可能で魅力あるまちづくりを進めていくことが求められています。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

明智町が目指す地域の姿は、「人が集い、世代を超えて交流し、安心して暮らし続けられる、活気と誇り、そして笑顔のあふれるまち」です。この実現に向けて、地域の歴史・文化・自然環境といった資源を最大限に活かしながら、若者から高齢者までが共に支え合い、誰もが参画できる持続可能な地域づくりを進めます。特に、国指定史跡を目指している明知城跡や日本大正村などの魅力を再発見・発信し、観光と移住促進を両立させることで、地域の活性化を図ります。また、子育て世代や若者が安心して暮らせる環境整備を進め、空き家の利活用を通じて住環境の質を高め、町内外の子育て世代や若者が安心して暮らせる環境整備を進めることで、人口増加につなげます。

交通インフラの整備や近隣地域との連携を強化し、広域的なアクセス性を向上させるこ

とで、地域の経済基盤を支えます。

地域住民一人ひとりが主役となり、世代や立場を超えて協力し合える仕組みを築くことで、地域コミュニティの再生と持続的な発展を目指します。失敗を恐れず挑戦できる風土を育み、柔軟で開かれたまちづくりを推進します。そして、日々の暮らしの中に笑顔があふれ、住民同士が温かくつながるまちを目指します。

【計画の視点】

本計画は、SDGs の理念「誰一人取り残さない持続可能なまちづくり」を基本に、すべての世代が安心して暮らし、笑顔でつながる持続可能な明智町を目指します

【計画の柱(基本目標)】

１．賑わいと活気、そして若者が活躍するまち

交流人口や関係人口の増加を目的に、地域の魅力を高め、賑わいと活力のあるまちづくりを進めます。若者が主体的に地域づくりに関わることで、持続可能な地域力の向上を図ります。そのために、明知城や明智光秀生誕の地（※1)、日本大正村などの地域資源を活かしたイベントや観光企画の充実、明智のファンの拡大、SNS やデジタルツールの活用、柔軟な役割分担による若者の参加促進、交流の場の整備、近隣地域との連携による広域的な取り組みを展開し、地域の魅力とつながりを次世代へと継承していきます。

２．安心していつまでも住み続けられるまち

すべての世代が安心して暮らせるよう、子育て支援や高齢者福祉、防災・防犯対策を充実させ、地域の助け合いを促進します。また、住民一人ひとりができることから関わり、声をかけ合い、支え合うことで、誰もが住み続けたいと思えるまちを共につくっていきます。

３．郷土の魅力と誇りを次世代へ

明智町の歴史・文化・自然などの魅力を再発見し、地域の誇りとして次世代へ継承します。地域行事や伝統の継承、体験や学びの場づくりを通じて、子どもたちが郷土に関心を持ち、愛着を育めるまちを住民みんなでつくっていきます。

【基本施策】

１．賑わいと活気、そして若者が活躍するまち

（１）人口減少対策としての空き家・空き地の活用

地域内の空き家・空き地を、農泊やカフェ、農業体験などに活用することで、地域資源を生かした新たな賑わいを創出します。特に空き家・空き地が多い本町通周辺では、かつての賑わいの復活に向けて、整備・活用を進めていきます。あわせて、在宅ワークの推進や企業誘致により働く場を確保し、定住の促進を図ります。さらに、子育て支援や住環境の整備、地域交流の充

実を通じて、移住者が「住みたい・住み続けたい」と思える魅力ある町づくりを目指します。

（２）観光資源の活用と魅力発信

日本大正村や明智光秀生誕の地（※１）など、地域の歴史文化資源を活かした観光振興を図ります。特に、明知城についてはその歴史的価値を再評価し、国指定史跡の登録を目指すことで、地域の誇りと観光資源としての魅力を高めます。八王子神社祭礼やぎおん祭りなど、地域に根ざした伝統行事も積極的に発信し、来訪者の増加と地域の賑わい創出につなげます。

（３）地域団体の連携強化

「日本大正村」「恵那市観光協会明智支部」「明知鉄道」「恵那市恵南商工会明智地域委員会」など、町内の主要団体が連携し、観光事業や地域イベントの推進体制を整備。住民と来訪者の交流を促進し、まちの活性化を図ります。

（４）地域力を高めるイベント展開と交流の場づくり

地域の特色を活かしたイベントを通じて、住民と観光客の交流を促進し、地域団体の連携を強化します。イベントの目的や内容を見直し、簡素化・集約することで、魅力的で持続可能な取り組みへと進化させます。さらに、地域おこし協力隊や明智出身者など外部の視点を積極的に取り入れ、新たな価値観やアイデアを導入します。住民が主体的に楽しみながら関われる運営体制を構築し、柔軟かつ世代を超えた協力のもと、地域力と一体感の向上を目指します。

（５）交通・情報インフラの整備

地域の活性化と若者の定着には、交通・情報インフラの整備が不可欠です。特に豊田市やリニア岐阜県駅とのアクセス改善は、広域的な人の流れを生み出す鍵となります。これらの整備については、市や県に対して情報提供や要望活動を継続します。また、市が検討しているSL復元事業を通じて、明知鉄道の魅力を高め、新たなまちの魅力として観光振興につながるよう、支援を行います。加えて、地域の重要な交通手段である東濃鉄道明智線の存続に向けて、関係機関と連携しながら支援を行っていきます。

（６）若者が活躍できる環境づくり

若者が地域に関心を持ち、主体的にまちづくりに関われるよう、柔軟な参加の仕組みや役割分担の見直しを進めます。若者の発想や行動力を地域活動に活かし、地域の活性化につなげます。

２．安心していつまでも住み続けられるまち

（１）子育て世代を応援するまちづくり

地域全体で子育てを支える体制を整え、安心して子どもを育てられる環境をつくります。

保育支援の充実や地域イベントの開催に加え、地域学校協働活動と連携し、学

校・家庭・地域が一体となって子どもの成長を支える仕組みを推進します。

（2）働く場の確保と働きやすい職場づくり

子育てや介護と両立できる柔軟な働き方を推進し、地域の事業者や団体には働きやすい職場環境の整備や就労支援への協力を呼びかけます。誰もが安心して働ける環境づくりを、地域全体で取り組みます。

（3）地域福祉の推進と連携強化

地域福祉の充実に向けて、明智地域福祉計画と恵那市社会福祉協議会明智支部との連携を強化します。地域の実情に即した福祉活動を展開し、住民の支え合いや見守り体制の構築を進めることで、誰もが安心して暮らせる地域づくりを目指します。

（4）防災・防犯体制の整備

自主防災組織の育成と活動支援を行い、地域の防災力を高めます。避難行動要支援者を把握し、災害時の支援体制を整備します。消防団や日赤奉仕団の継続支援と若手育成も推進し、地域の安全を守る人材を育てます。

（5）地域の安全・安心な交通の確保

明智まちなか線やデマンド交通の活用に加え、自動運転などの新技術の導入を進めることで、誰もが移動しやすく、暮らしやすい環境を整えます。高齢者や交通弱者への支援を強化するとともに、市や県と連携した主要道路の整備を要望し、地域内の生活利便性の向上を図ります。

3．郷土の魅力と誇りを次世代へ

（1）郷土に学ぶ

地域の歴史や文化、伝統芸能（歌舞伎・太鼓など）、郷土の偉人「山本芳翠」について、学校教育や市民講座、地域イベントを通じて学ぶ機会を広げます。子どもから大人までが郷土の魅力を再認識し、誇りを持てる環境を整えます。

（2）豊かな自然環境の保全と活用

大正村明智の森や里山などの自然資源を活かした体験型観光を推進し、地域住民と来訪者がともに楽しめる場を創出します。恵那市の景観重要樹木である「下が淵のカエデ」や「遠山桜」「ひとつばたご」「団子杉」など、地域固有の自然の魅力を積極的に情報発信し、保全活動と観光振興の両立を図ります。

（3）歴史的財産の活用と継承

明智町に残る中馬街道・南北街道、明知城跡、すわがみね（諏訪ヶ峰）などの歴史的資源を活かし、地域の魅力を高める取り組みを進めます。これらの文化財や旧街道を活用した観光ルートの整備や、地域住民による案内・ガイド活動の推進を通じて、郷土の歴史を次世代へ伝えるとともに、交流人口の拡大を図ります。

（４）情報発信の充実

住民が主体となって地域の魅力を発信する取り組みを支援します。SNS やホームページ、「あけちだより」などを活用し、町内外に向けて明智町の魅力を継続的に発信します。

（５）子どもたちへの継承

地域の魅力を次世代に伝えるため、学校・家庭・地域が連携した教育活動を推進します。

地域学校協働活動やコミュニティスクールの取り組みを通じて、子どもたちが郷土に関心を持ち、将来の担い手として育つ環境を整えます。

（※１）明智光秀の生誕地には諸説ありますが、岐阜県恵那市明智町では、光秀がこの地で生まれたという伝承が古くから語り継がれています。史料が少ないため確定はできませんが、地域の人々は先祖代々の言い伝えを大切にしており、本計画ではその歴史的背景と地域の思いを尊重し、「明智光秀生誕の地」と表記しています。

串原地域自治区

【キャッチフレーズ】

人が元気・まちが元気・暮らし続けられるまち串原

【地域の現状】

串原地域においては、人口減少が急激に進んでいる。

２０年前の２００５（平成１７年）に９７１人だった地区の人口は２０２５年（令和７年）には６２０人となった。この２０年の間に人口は３６％減少し、およそ３分の２の規模まで落ち込んだことになる。

また、２０２５年（令和７年）における地区の高齢化率（６５歳以上の高齢者が地域人口に含める割合）は４９．２％となった。一般的に「６５歳以上の高齢者が集落人口の５０％を超えた集落」は「限界集落」と呼ばれ、「社会的共同生活を維持することが限界に近付いている状態」にあるとされている。事実、串原地区においても農地や山林の荒廃が進んだり、集落運営の担い手が不足したりするなどの社会的共同生活の機能が失われる事例も出始めており、串原地区が「限界集落」の入口に立ったことは間違いない。

手をこまねいてこのまま集落の限界を迎えていくのか。地域住民の底力を発揮し、いつまでも暮らし続けられる元気な串原を作っていくのか。今、私たちはその別れ道に立っている。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

串原地区において、今後も人口減少と高齢化は一層進む。

ある調査によれば、２０年後の２０４５年（令和２７年）において、串原地区の人口は２２０人と推計されている。これは現在の人口のおよそ３分の１という規模であり、住民の暮らしや地域活動は確実に縮小していくと思われる。

たとえ２００人規模のまちとなっても、住民一人ひとりが自分らしく、元気に暮らし続けられるまちをつくっていきたい。予想される「生活環境の悪化」や「地域文化の衰退」などに立ち向かい、「持続可能なまちづくり」をめざしていきたい。

「人が元気　まちが元気　暮らし続けられるまち　串原」の具現に向けては、国や地方公共団体の制度・施策が大きく影響してくる。その制度や施策を活用しながら「住民としてできること」に総力をあげて取り組んでいく。串原という地域コミュニティを維持し、さらに強化していく。

そこで、「暮らし続けられる　串原」をテーマに次の３点から、構想する。

①串原での暮らしは「楽しい」〈地域資源〉

・都会では味わえない自然や文化、生活の魅力がいっぱいある。
②串原の暮らしは「安心」〈インフラ〉
・決して便利ではないけれど、医療や福祉、防災、交通など基盤が整っている。
③串原での暮らしは「つながり合っている」〈共助・コミュニティ〉
・互いに助け支え合い、独りぼっちの人はいない。

【計画の柱(基本目標)】

１．串原の自然や文化とともに「楽しく」暮らす

豊かな自然や文化、生活をみんなで楽しみます。串原の良さや魅力を地域外の人にも伝えながら、一緒になって楽しい暮らしを作り出します。

２．生活の土台を安定させ、「安心して」暮らす

医療や福祉、防災、交通など暮らしの土台が安定するよう、行政の施策を積極的に活用します。地域住民一人ひとりに寄り添ったきめ細やかな取り組みを進めます。

３．お互いに支え合い、「つながり合って」暮らす

地域の行事や活動に進んで参加します。子供や若者、高齢者など世代を超えて、助け合ったり、支え合ったりし、人と人とがつながり合う串原をつくります。

【基本施策】

計画の柱１：串原の自然や文化とともに「楽しく」暮らす

（１）施策の項目　豊かな自然環境の中での暮らしを楽しむ

自治会による道路沿いの草刈り・清掃活動を継続実施し、良好な景観と生活環境を維持します。

希少植物の保護・育成など、ささゆり保護育成会を中心に住民参加型の自然保全意識を醸成します。

（２）施策の項目　伝統的な文化や生活を楽しみながら、次世代へつなぐ

中山太鼓・歌舞伎・ヘボ料理などの地域文化を、講座・体験活動・発表会等により次世代に継承します。

地域おこし協力隊や若手住民によるＳＮＳ等での情報発信を進めます。

（３）施策の項目　「小さく稼ぐ」農業や林業を起こし広げる

農業や林業にドローン・センサー等を活用したスマート農林業を進め、効率的な農林業を進めます。

農地や林地及び生活圏を脅かす鳥獣害に対し、遠隔操作による鳥獣捕獲を進め、持続可能な地域資源の活用を進めます。

（４）施策の項目　交流人口や関係人口を増やす

串原温泉、マレットゴルフ、山城、奥矢作湖など地域資源を活かした観光を促進し、ウォーキング大会や体験イベントによる交流の促進を図ります。

地域おこし協力隊による情報発信や体験型観光プログラムの開発を通じて、関係人口・観光人口の増加を図ります。

計画の柱２：生活の土台を安定させ、「安心して」暮らす

（１）施策の項目　現行の医療・福祉サービスを維持する

週１回の診療所やディサービス、福祉センターなどの既存施設を活用しながら、住民の見守りと福祉サービスを維持します。

在宅ケアなど地域内での支援体制を強化し、医療・福祉サービスの補完を進めます。

（２）施策の項目　一人ひとりを想定した防災体制をつくる

要支援者名簿、安心カード、救急医療情報キット等を活用し、個別避難支援体制の整備や防災訓練の実施を通じて、災害時の地域の備えを強化します。

独居世帯にデジタル技術を活用した見守り体制を進めます。

（３）施策の項目　バスを中心にした公共交通システムを整備する

有償運送の利用促進、並びに移動販売車による買い物支援を継続します。

将来的なデジタル技術の導入による効率的な移動・物流支援体制の整備を進めます。

（４）施策の項目　農地や森林、空き家の荒廃を防ぐ

空き家の実態調査を継続し、適正管理の指導並びに利活用を促進します。

空き家周辺の防犯、並びに空き家に伴う農地、山林の荒廃を防ぎ安心・安全な生活環境を確保します。

計画の柱３：　お互いに支え合い、「つながり合って」暮らす

（１）施策の項目　住民交流の場や機会を増やし、相互理解を進める

高齢者をはじめとする住民のふれあいサロンなど地域内における気軽な集いの場を確保し、孤独防止と住民の心の健康づくりを進めます。

（２）施策の項目　「見守り活動」を強め、住民一人ひとりを見届ける

民生委員やケアマネジャー、自治会などによる見守り活動を継続し、独居世帯などにデジタル技術を活用した見守り体制を進めます。

独居世帯を対象とした配食サービスによる、見守りを兼ねた訪問支援を継続実施します。

（３）施策の項目　若い世代や移住者などの地域活動への参加を促す

子育てしやすい環境を進め、若者が地域活動に参加しやすい体制を進めます。

移住者との交流を進め、移住者が地域活動に参加しやすい環境づくりを進めます。

（４）施策の項目　機能的で働きやすい地域運営の仕組みをつくる

地域情報の共有や行政からの情報などを活用し効率的・機能的な地域運営の仕組みづくりを進めます。

デジタル技術講座、防災講座、市民講座など学びの機会を設け、地域で活かせる仕組みや人材を育成します。

上矢作地域自治区

【キャッチフレーズ】

子どもからお年寄りまで　安心して暮らせるまち　上矢作
～ほかほか安心 きらきら輝く いきいき元気 わくわく楽しい かみやはぎ～

【地域の現状】

上矢作町は恵那市南部に位置し、山と清流に恵まれた自然豊かなまちです。合併前より「福寿の里上矢作」として国保上矢作病院、保健センター、歯科診療所、特別養護老人ホーム福寿苑などが整備され、住民にとって健康で安心な暮らしのよりどころとなってきました。こうした豊かな自然とあたたかい人のつながり、充実した医療・福祉体制に町民は愛着と誇りを持っています。

一方、上矢作町では人口が１，５００人を割り、人口減少率は市内で最も高く、高齢化率が６０％に迫る勢いとなっています。特に子どもの減少が著しく少子高齢化が深刻な問題となっています。また、町民アンケートでは、免許返納に伴う交通手段の確保、病院の存続、地域の存続、空き家の管理等、様々な不安を持っていることがわかりました。

こうした現状を踏まえ、人口減少に歯止めをかけ、生活の不安を解消し、持続可能な地域づくりを進めることが上矢作町にとって喫緊の課題となっています。

【目指すべき地域の姿(地域の全体構想)】

・地域の自然とあたたかい人のつながり、上矢作病院を中心とした医療・福祉体制に愛着と誇りをもち最大限に活かしていきます。
・地域住民は、「おたがいさま」の「相互扶助」の精神で助け合い、こどもからお年寄りまで、生き生きと元気に活躍できるまちづくりを進めます。
・日帰り圏内に住む家族や観光客との交流促進や空き家および耕作放棄地対策、鳥獣害対策などに取り組み、地域の活性化と移住定住促進に繋げます。
・世代を越えたメンバーで第３次地域計画実行組織をつくり、次世代の担い手を育成しながら、子どもからお年寄りまで安心して暮らせる地域コミュニティづくりを推進します。
・地域住民の参画を促すことで多様な価値観の交流や、より地域住民が主役となったまちづくりを目指します。

【計画の柱(基本目標)】

１．ほかほか安心！　『いつでも、いつまでも誰もが安心ほっとするまち』

上矢作病院や福祉施設を地域住民が積極的に利用・活用し、上矢作病院を核に、地域住民が健康づくりに取り組み、まめでぴんころ健康長寿のまちづくりを目指します。

２．きらきら輝く！　『豊かな自然と人々の交流で輝く上矢作』

自然、観光資源を活用して町内外の人達が交流することで、にぎわいが生まれるまちづくりに取り組んでいきます。

３．いきいき元気！　『農林業を活かした躍動する元気なまち』

山林、農地を健全に保全しつつ、有効的に活用し、地域住民が協力し合い、山林、農地を活かした産業の循環ができるまちづくりを目指します。

４．わくわく楽しい！『知恵と、技、喜びをつなげる　ふるさと上矢作』

地域住民の絆を大切にし、若い世代や、子ども達がまち特有の歴史・文化を学び、郷土愛を育めるまちづくりを推進することで、住み続けたいまちづくりを目指していきます。また、他地域からの移住受入体制を充実させると共に、上矢作町の魅力や情報を町内外に継続的に発信し定住促進を図ります。

【基本施策】

計画の柱１．ほかほか安心！『いつでも、いつまでも誰もが安心ほっとするまち』

（１）地域ぐるみで健康長寿を目指すまちづくり

日常診療から救急、検診、予防活動など、いつでも安心して受診することができる上矢作病院を地域ぐるみで利用・活用する等、地域住民が連携し支援することで町民の健康長寿を目指します。

（２）健康づくり活動や高齢者、障がい者などの生活サポートの充実

病院、歯科診療所、保健センターと地域が連携した健康づくり活動を推進し、地域住民の健康長寿を目指します。また、買い物や外出などの日常生活支援を継続し、地域住民が安心して暮らすことができる環境づくりに取り組みます。

（３）安心で快適なまちづくり

安心して暮らせるまちづくりのため、非常事態に備えたライフラインの整備を要望していきます。また、ご近所同士で助け合いや見守りができる体制づくりを進めます。

計画の柱２．きらきら輝く！　『豊かな自然と人々の交流で輝く上矢作』

（１）観光施設の充実による賑わいのあるまち

道の駅をはじめとした、観光施設周辺において、地域の人が集まり、利用できる環境づくりを進め、町内外の交流の場に繋げるような取り組みを充実させます。

（２）清流を活かしたまちづくり

町内の河川や宿泊施設を中心に、上矢作で泊まって楽しめる環境づくりを推進します。

（３）観光資源の再発見と情報発信の推進

新田の桜や松並木等の文化財や地域で育んできた自然及び景観を地域で守り、継承していきます。また、新たな特産品の開発や観光・文化資源を活用した取り組みを積極的に情報発信していきます。

計画の柱３．いきいき元気！　『農林業を活かした躍動する元気なまち』

（１）農地の有効活用

営農組合や農業関係者を中心に、生産物、収穫物の流通の仕組みや事例を研究します。

（２）鳥獣害対策

上矢作鳥獣害対策協議会や猟友会と連携をとりながら、地域ぐるみで鳥獣被害対策に取り組んでいきます。

（３）地域環境を守り、森林づくり活動に対する協力体制

地域環境の美化や不法投棄を防ぎ、間伐など森林保全に対する関心を高める活動により、災害に強い森づくりを進めます。また、木材は建築材以外の活用法も見つけ需要拡大を図っていきます。

計画の柱４．わくわく楽しい！『知恵と、技、喜びをつなげる　ふるさと上矢作』

（１）人をつなぎ、ふるさとへの愛着を育む活動

地域のお年寄りから子育て世代、若者から子どもまで、年代関係なくコミュニケーションをとり、地域の歴史継承・文化体験を行うイベント等に関わるきっかけをつくり参加することで、地域の絆を深め郷土愛を育みます。

（２）安心子育て支援

地域の豊かな自然と文化、町の人の力を活かして地域の特色ある保育、小学校、中学校教育を支援し、子育て世代へのサポート活動の充実を図ります。

（３）移住定住に向けた活動の充実

移住者を呼び込み、サポートする体制の充実を図ります。また、まちの空き家や空農地等の情報を幅広く収集し、町内外への移住・定住に関わる情報発信を推進します。